

令和6年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

No.	都道府県	市町村	地区名 / 氏名		部門	取組の概要
1	鳥取県	境港市	特定非営利活動法人未来守(さきも)リネットワーク	 アマモ種子の採取・移植イベント	ビジネス・イノベーション	・生活排水などで水環境破壊が進んだ中海の再生のため、鳥取、島根両県の有志が集い平成16年に設立。 ・中海で異常繁殖した海藻類を回収し有機肥料(海藻肥料)に加工して農作物の栽培に活用。液肥も開発。 ・子ども達が参加するアマモ類の移植事業で、水質浄化、魚介類の産卵・育成のためのアマモ場を再生。 ・行政と連携しイベントを開催。海藻肥料で栽培した農産物や県内水産物をPR・販売。令和6年7月には約800人を集客。
2	島根県	安来市	大森 雄介	 地元高校での国際交流実習	個人	・安来市を中心に島根・鳥取両県でアメリカの若者の農業・田舎体験、文化交流等の国際交流プログラムを令和元年から実施。関係人口を世界に広げ、次世代が未来に希望を見いだせる地域づくりを目指す。 ・安来市周辺になかったいちご狩り園を令和2年に開園。地域の他の経営体も運営を始めるなど波及。 ・年間作業の平準化と施設利用効率向上のため、いちご用ビニールハウスを活用したメロンとの二毛作営農モデルを確立。他の経営体がこの営農モデルを実践。
3	岡山県	真庭市	NPO法人真庭あぐりガーデンプロジェクト	 カット野菜の作業をする高齢者グループ	ビジネス・イノベーション	・取組の中心の「お節介野菜プロジェクト」は地場産規格外野菜をカットし調理キットとして製造・販売するプロジェクト。高齢者5名で令和元年にスタートし、5年には106名と地域の高齢者だけでなく多世代が参加。 ・調理キットの製造数は令和5年度に約40,000袋(開始当初の約14倍)と、年間約24tの食品ロスを削減。 ・地域の家庭生ごみ等から精製したバイオ液肥による循環型農業推進や農業振興、食品ロス削減、高齢者活躍など環境・農業・福祉の連携モデル。
4	広島県	尾道市	瀬戸内怪獣レモンプロジェクト委員会	 怪獣レモンメインビジュアル	ビジネス・イノベーション	・地元で耕作放棄地が増加する中で地域活性化のため、見た目が不揃いで市場に出せない規格外のレモンを、令和元年に「怪獣レモン」としてブランド化。高価格で買い取り、パッケージ化して生食用や加工品として販売。令和5年度の怪獣レモンの取扱数量は14t(生果換算)。 ・地元メーカーと共同開発等したサイダー、イカ天の販売をきっかけに、「怪獣レモン」使用の商品開発・販売は全国に拡大。農家の所得向上や地域の雇用創出を実現。 ・大学生を対象としたインターンシッププログラム提供など地方創生に向けた次世代リーダー育成にも注力。
5	山口県	周南市	棚田清流の会	 ドライブスルー型マルシェ	コミュニティ・地産地消	・平成13年に発足以来、非農家を含めた近隣5集落全住民を会員として活動。 ・休耕田の草刈り作業などの農地・景観の保全、農業体験や「棚田サポーターズ倶楽部」設立などによる都市部住民との交流など、様々な取組を実施。地域活性化に取り組む。 - 農業体験交流会は参加人数を増やし、令和6年度は開始時の約1.4倍の450人となる見込み。 ・地域住民の所得向上のため、「ドライブスルー型マルシェ」を開催するなど、農産品や加工品、薪や竹炭などを販売。

令和6年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定地区

No.	都道府県	市町村	地 区 名 / 氏 名		部門	取 組 の 概 要
6	徳島県	つるぎ町	家賀再生プロジェクト	 無農薬・無化学肥料の藍栽培	コミュニティ ・地産地消	・標高500mの畑で世界農業遺産認定「にし阿波の傾斜地農耕システム」でカヤ・落葉などを用い「藍」を栽培。食用としてパウダー化して販売。 ・当農耕システムはSDGsの取組として優れ、カヤ農法はカーボンニュートラル達成手段として再評価された。 ・家賀地区を含むにし阿波地域では、農泊・農業体験の受入が年間10,000人を超える。家賀再生プロジェクトと地元団体が協働で地区でのツアーや農業体験を受入れ、活性化に貢献。 ・令和4年に地区内農地を利用し、農業参入したリース法人を支援。
7	香川県	東かがわ市	三高みんなの食堂プロジェクト (香川県立三本松高等学校)	 ほぼ地元産品で作る 日替わり定食	コミュニティ ・地産地消	・高校の生徒・職員、地元生産者を中心に令和2年に設立。高校の学食の運営で、生徒が主体的にできることをし、生産者が学食で調理運営する。学びと地域交流の場として質が高く持続的な学食を目指して活動。 ・生徒は、畑での作物づくり、メニュー開発、マルシェ実施など自主的にチームを作って活動し、生産者は学食で地元食材や規格外品を積極的に活用し調理。地産地消や食品ロスなどSDGsの視点をもって取り組む。 - 学食(弁当含む)は高校以外の地域住民も利用。
8	愛媛県	今治市	しまなみイノシシ活用隊	 廃棄部分(皮)の利活用	ビジネス・ イノベーション	・捕獲したイノシシを食肉として利活用し、地域資源として所得に結びつけるため平成22年に設立。 ・捕獲から販路開拓、販売までを一括で行い、かんきつ類の生産地であることから「みかんイノシシ」としてブランディングし特産品として販売。令和5年度は450頭余を処理し、2,700万円余を売上。 ・精肉販売増加や骨・皮の利活用等で狩猟やジビエ関連の雇用が増加。 ・畜産業を守るため、行政や大学と連携し、豚熱ワクチンの散布を受託。
9	高知県	土佐市	有限会社 戸田商行	 木毛(もくめん)を使った木育	ビジネス・ イノベーション	・昭和36年創業。プラスチック製緩衝材にシェアを奪われ衰退する中、伝統の継承を大切に、天然緩衝材「木毛(もくめん)」にこだわり作り続け、木育活動、地域連携に取り組み、持続可能な社会の実現を意識して活動。 ・地域資源を活用した新たな商品開発により、地元農業者や障害者施設の所得向上に貢献。地元生産者からの県産木材等原料買取金額は令和5年度で1,200万円を超える。 ・新たな商品(エッセンシャルオイル)は、輸出により売上を伸ばしている。令和5年度で570万円余。